



No. 8 平成30年 10月1日

# 南中だより

伊丹市立南中学校長 柳井 泰司

両面印刷

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果報告

3年生対象に、平成30年4月17日（火）に行われた「全国学力・学習状況調査」について、本校の結果等をお知らせ致します。なおこの調査で測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一つの側面です。

### 全国学力・学習状況調査

#### 1 学力に関する調査

国語A、数学A・・・基礎学力（知識）を問う問題

国語B、数学B・・・応用力（活用）を問う問題

理科・・・知識、活用を問う問題

#### 〈国語〉

- ① 全国の平均正答率（国語A－76.1、国語B－61.2）と比べると、国語Aは3.9ポイント上回り、国語Bは2.8ポイント上回っていました。
- ② 平均無解答率において、全国と本校を比較すると、国語Aは1ポイント、国語Bは0.5ポイント低く、無解答率が最も高い問題でも本校生徒は、国語Aでは7.2ポイント、国語Bでは5.4ポイント低く、平均正答率が全国平均を上回った要因につながっていると考えられます。
- ③ 出題の趣旨において、国語Aで、本校の正答率が50%以下の設問は、「適切な語句を選択する（彼はせきを切ったように話し始めた）。（34.4%）」【「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く（28.2%）】でした。国語Bにおいては、「グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する。（49.3%）」、「「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く。（14.5%）」でした。
- ④ 全体的に領域別では全て全国平均を上回っているが、「文章とグラフとの関係を考えてながら内容を捉える。」「文章の展開に即して情報を整理し内容を捉える。」についての問題の正答率が低い。特に、文章とグラフとの関係を考えて、情報を整理した条件作文を書く機会などを増やし、書く力を伸ばしていきます。  
今後は、基礎・基本の定着を図り、ペアワーク・グループワークなどの少人数学習を取り入れ、スピーチや話し合いの方法、ノート指導などをバランス良く取り入れ、課題解決学習の定着と理解を図っていきます。

#### 〈数学〉

- ① 全国平均正答率（数学A－66.1 数学B－46.9）と比べると、数学Aは、2.9ポイント、数学Bは、3.1ポイント上回っていました。

- ② 平均無解答率は全国平均に比べ、数学 A は 0.7 ポイント、数学 B は 2.3 ポイント低く、無解答率が全体的に全国と比較して低かったのが、平均正答率が全国平均を上回った要因につながっていると考えられます。
- ③ 数学 A、B の領域別において「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」等、全ての問題で平均正答率を上回っていました。
- ④ 出題の趣旨において、数学 A で、本校の正答率 50 % 以下の主な設問は、「等式について解く。(48.5 % )」、「対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ。(39.2 % )」、「1 枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ。(37 % )」、数学 B では、「A 駅からの道のりが 6 km の地点において、列車アが通ってから列車エが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する。(11.8 % )」、「通常料金を  $a$  としたときの団体料金の 10 人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する。(11.8 % )」等の問題の正答率が特に低く、文字式、図形、関数を総復習し、課題解決力を身につける必要があると考えられます。

今後の対策としては、基礎・基本の学力の定着と家庭学習において復習・予習の時間確保ができるよう指導し、数学的な用語についての意味の理解を深めていきます。

### 〈理科〉

- ① 全国平均正答率（理科ー 66.1）と比べると、1.9 ポイント上回っていました。
- ② 平均無解答率は全国平均に比べ、0.6 ポイント低く、無解答率が全体的に全国と比較して低かったのが、平均正答率が全国平均を上回った要因につながっていると考えられます。
- ③ 理科観点別において「知識」、「活用」に関する問題、「第 1 分野」、「第 2 分野」等、全ての問題で平均正答率を上回っていました。
- ④ 出題の趣旨において、本校の正答率 50 % 以下の主な設問は、「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる。(48 % )」、「風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる。(38.4 % )」、「炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる。(44.5 % )」、「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる。(21.8 % )」でした。

今後の対策としては、宿題等を通して、問題解決学習に取り組む習慣づくりを行います。基礎・基本の定着を図るとともに、班別活動等を通して生徒が主体的に学べる機会を設け、言葉、語句の意味理解を図り、内容理解ができるよう指導を行っていきます。

## 2 学習状況調査

学習状況調査とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査のことです。質問は 59 項目ありました。その中の一部の結果を報告します。

- ① 「朝食を毎日食べていますか。」という質問では、食べている生徒が全国平均は 91.9 % に対し、本校は、91.7 % の生徒が食べていると答えており、わずかに下回っていました。
- ② 「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問では、「あると思う」と答えた生徒は、全国平均が、78.8 % に対して、本校生徒は、83.4 % と **4.6 % 上回っていました。**
- ③ 「学校の授業以外に普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（1 時間以上使用している生徒の数）」は、全国平均は 70.6 % に対し、本

校は72.9%と全国平均を**2.3%上回っていました。**

- ④ 「家で学校の授業の予習・復習をしていますか。」については、全国平均は55.2パーセントに対し、本校は45.4パーセントと全国平均を、**9.8%下回っていました。**
- ⑤ 「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。」という質問では、全国平均が71.3%に対し、本校は69.8と全国平均を**1.5%下回っていました。**
- ⑥ 「1・2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」という質問では、全国平均73.8%に対し、本校生徒は70.3%と全国平均を**3.5%下回っていました。**
- ⑦ 「1・2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」という質問では、全国平均が53.8%に対して、本校生徒は51.1%と**2.7%下回っていました。**
- ⑧ 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という質問では、全国平均76.3%に対して、本校生徒は74.7%と**1.6%下回っていました。**

朝食摂取、家庭における学習時間の確保（予習・復習）等を踏まえ、今後も各ご家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。学校として、学習意識の向上、自尊感情を高める取り組み等を今後も継続して行っていきます。

### 3 今後の取り組みについて

- ① 国語において、問題を丁寧に読む習慣化を図り、グラフと文章の関係から考えさせる必要な内容を読み取る力を育成していきます。また、慣用句・ことわざ等は授業進捗にとらわれず、復習時間を確保し、条件作文を定期テストや授業中に重点的に取り組んでいきます。
- ② 数学において、数学的な用語の意味をより確認し、資料（グラフ・表等）から必要な情報を読み取る力を育成し、特に、関数・証明についての理解を深めていきます。基礎・基本の定着と振り返り学習を行い、事象について、数学的な表現で説明できるグループワーク等を取り入れていきます。
- ③ 理科において、科学的な考察力、空間図形的分析力が低く、今後は授業等を通して考察力・分析力・活用力を身につけていきます。また、班別活動等を通して生徒が主体的に学べる機会を設け、科学的な事象については、実験等を通してメカニズムを理解させていきます。
- ④ 日々の授業において、「今日のねらい」の定着化と周知徹底を図っていきます。また、基礎・基本の定着を図り、「繰り返し学習」、「振り返り学習」の充実を図ります。
- ⑤ コミュニティ・スクール指定に向けて、さらなる地域連携を図り、地域・保護者・学校が総がかりで学力向上に取り組んでいく必要があります。
- ⑥ 「未来を切り拓く力」、「生きる力」を育て、学力向上に繋げていきます。
- ⑦ 生徒指導体制及び研究推進体制のタイアップを図り、教員の資質向上、若手教員等の育成等を図り、授業力向上に繋げていきます。
- ⑧ 授業改善（アクティブ・ラーニング）に取り組み、教科内連携を充実させ、学力向上における分析・検証を行い戦略的に取り組んでいきます。

- ⑨ 小人数授業、終礼後の「学習タイム」放課後学習「先生教えてクラブ」等の充実を図り、個に応じた支援を行っていきます。
- ⑩ 自尊感情を育み、「学びに向かう力」を育成していきます。
- ⑪ 学校図書館を活用し、学校図書館司書、学校図書館サポートと連携し、読書教育の充実を図っていきます。
- ⑫ 教科間・学年間連携を図り、特に3年生を対象とした補充学習、個別学習、放課後学習の充実に努めていきます。

#### 4 新学習指導要領が求める学力の育成 (第2回校園長会 教育長講話より抜粋)

伊丹市の小中学校とも、漢字の読み書き計算等基礎的な問題の「正答率」は上がり、知識の定着が図られてきた。

問題文、図表、グラフ等から必要な情報を抜き出し、自分らの知識と関連づけ、適切な字数や表現でまとめるという「知識を活用する問題」では「正答率」が依然として低く、大きな課題である。分析によって明らかになったこと「知識・技能」を問うA問題も、単に「知識」だけではなく、意味を理解し、学んだ「知識を活用できる力」を問う問題が出題されている。新学習指導要領のねらいである「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」が一体的に育まれているかどうかを問う問題が出題されている。今年度は、これまでの、「計算問題を解く」といった問題でなく、その「計算の意味」を理解しているか「割り算の意味」を理解しているかが問われている。円周率を丸暗記するのではなく、具体的に様々な大きさの円を使い、円周と直径を測りながら、「円周率は3.14(円周率とは円周・直径)」と気づくような「体験的な学び」による理解が必要である。個々の具体例から、原理や法則を導き出す学習が求められている。

今年度は、昨年度までの、漢字の「読み書き」ではなく、その漢字の意味を理解し、意味にあった使い方ができるかを問う「活用型の問題」になっている。

今年度は、「新学習指導要領のねらい」に基づく問題に傾向が変わった。

これらの問題は、子どもたちが今後、パソコンで文字を入力する際に適切な文字を選択することができるか等、実際の生活の中で求められる力である。

中学校国語Bは、「総合的な学習の時間」における学習で、ロボットについて調べ考えたことを発表する設定となっている。

1番の問は、「質問の意図」を理解する力が問われている。2番の問は、相手の言いたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりする力、即ち「質問力」が問われている。3番の問は、相手とのやりとりをふまえ、自分の考えを「話す力」が問われている。

「言語能力」を育成するための「授業のあり方」を、校内外の「教科担当者会」等において、教科を上げて取り組む必要があります。

現在の労働人口の約半数が就いている仕事は、将来、AIやロボットに代替されるという予測がある中、このような社会を生きる子どもに必要な「力」は、AIが持っていない力である。その力とは、「読解力(教科書レベルの文章や「説明書」を正しく理解する力)」、「論理力(自分の考えや意思を相手に伝え、説得や議論できる力)」、「数学力(問題を設定し、試行錯誤しながら数字を使って分析的に解く力)の3つである。